

犬山市地域農業再生協議会（愛知県犬山市）

組織の概要

- 犬山市、JA愛知北、愛知県農業共済組合が構成員となり、H24年度に設立。
- 農家数13名（R2年）（うち、水田麦・大豆産地生産性向上事業の対象は3経営体）
- 高齢化の進展に伴い、農地の維持が課題となっていることから、担い手への利用集積と水稲から他作物への転換を推進。

生産概要

- 【作付面積】水稲：408ha、小麦：12.6ha（R2年）
- 現状は、水稲を基幹とする水田単作経営が水田面積の7割を占め、主流となっているが、主食用米の需要が減少する中、飼料用米、麦等の転換作物の生産拡大を推進。
- 小麦については、当地域の南部において、日本麺用品種「きぬあかり」を作付け。
- ほぼすべての農地において基盤整備は完了しているが、小麦は、ため池を水源としている水田や末端にある水田など、水持ちが悪いほ場を中心に作付け。
- H10年に小麦の作付けを開始し、徐々に作付面積を拡大。



<麦ほ場の様子>

取組のポイント

<需要に応じた小麦の生産拡大>

- 当地域で生産する「きぬあかり」は、麺の加工適性が高く、実需者から高評価を得ており、今後も安定した需要が見込まれる。
- 生産拡大に向け、地域の中心的な生産者において機械を導入。サブソイラの導入により、水はけの悪いほ場において心土破碎による湿害対策を進め、麦の作付け可能なほ場を増やす。また、播種機の導入により、これまで水稲単作であった1経営体が新たに麦生産に取り組む。
- 「きぬあかり」の作付面積は増加傾向にあるが、単収は県平均を下回る低水準であることから、土壌診断に基づく土壌改良材の散布や施肥体系の構築を行い、収量の高位安定化に取り組む。また、小明渠浅耕播種技術の導入を進め、播種作業の効率化を図り、作付面積の拡大に対応する。



サブソイラによる心土破碎

<ほ場の団地化による小麦の生産性の向上>

- 既存の小麦作付地と連担するほ場で湿害対策を実施し、作付けに適したほ場を面的に増やすことで団地化を推進し、作業の効率化を図る。
- 団地化の推進に向けては、小麦の作付地に係る検討会を開催し、担い手同士の話し合いを実施。

取組成果

<小麦生産の高位安定化の実現>

- 作付面積の拡大
12.6ha（R2）⇒ 19.1ha（R4）（51.5%増）〔R6目標：23.0ha〕
- 団地化率の向上
9.5%（R2）⇒ 25.1%（R4）（15.6P増）〔R6目標：24.7%〕

